



あい動物クリニック院長
(富山市小杉)

小杉 和伸

ワンちゃんが体をかゆがり、体臭がきつくと、皮膚がべたつくようになる。こうした症状は「マラセチア皮膚炎」、耳ならば「マラセチア外耳炎」の可能性があります。マラセチアは皮脂を好む酵母、つまりカビの一種で、健康な皮膚にも存在します。ここで問題なのは「マラセチアはどのワンちゃんの皮膚にも存在する皮膚常在菌」ということです。治療すれば改善さ

犬のマラセチア皮膚炎

マラセチア皮膚炎を発症した犬



れますが、マラセチアが増殖すると、病状は再発します。遺伝上の体質、アトピーやアレルギー疾患、ホルモン疾患などにより、皮膚表面のバリアー機構が壊されることでマラセチアが増殖します。皮膚常在菌がなぜトラブルを起こすの

常在菌が引き起こす

か、いまだに不明な点も多くあります。

症状は皮膚の激しいかゆみや赤み、局所的なおおい、べたつきです。ひどいワンちゃんは年間を通して発症し、特に高温多湿の夏場に悪化する傾向があります。脇の下、耳、足先、目や口の周り、下腹部、陰部や肛門周囲のほか、しわの間も症状が出やすい場所です。象の皮膚のように分厚く、黒っぽく、乾いたもしくは湿った状態になることもあります。左右対称の位置に同じような皮膚病変を形成することも判断基準の一つです。

診断は皮膚や耳から細胞を採取して、顕微鏡でマラセチアの増殖を確認します。フィラリアやノミダニの予防薬の使用実績をお聞きしながら、鑑別診断目的で細菌感染や毛包虫を含む寄生虫の有無も検査します。

治療は、抗真菌成分を含んだシャンプーのほか、場合によっては保湿剤や、かゆみをコントロールする内服薬などを使います。マラセチアに対する抗真菌薬の内服薬もありますが、肝臓障害の副作用も起こりうるため、十分に担当獣医師と検討する必要があります。

抗真菌薬の外用薬を処方することもあります。これらの対症療法を行いつつ、マラセチア増殖の背景にあるアレルギー疾患やホルモン疾患の治療や、食事の変更をアドバイスします。

予防方法は、特に暑い時期は皮膚表面をシャンプーなどで清潔に保ち、それぞれの皮膚の状況に応じて担当獣医師と相談されるのが良いでしょう。

マラセチア皮膚炎は、基本的には完治できない疾患です。ただコントロールすることは可能であり、飼い主さまの疾病に対する十分なご理解が必要と感じています。

毎月第1土曜掲載